

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.109

< 目次 >

【行事案内】

- ★ 平成27年度第1回、第2回環境講座 1

【報告】

- ★ 幹事会、総会報告 2
- ★ NPOいわき環境研究室 4
- ★ 自然エネルギー研究会 5

【リレーエッセイ】

- ★ タネをネタにしてみました。 6

【行事案内】

平成 27 年度第 1 回、第 2 回環境講座

今年度から環境講座を懇話会として随時開催します。
まずは、「今求められている環境教育とその実践例」をテーマに取り上げます。
興味のある方による活発な議論をお待ちします。
日程等は次のとおりです。

第 1 回環境講座

期日 7月18日（土）13：30～15：30
場所 いわき市文化センター 3階 和室1
講師 佐藤烈さん（会員）

第 2 回環境講座

期日 7月26日（日）13：30～15：30
場所 いわき市文化センター 3階 和室1
講師 佐藤烈さん（会員）

【報告】

平成 27 年度第 1 回幹事会 開催報告

去る平成 27 年 5 月 17 日（日）15 時から、いわき市労働福祉会館和室において、平成 27 年度第 1 回幹事会が開催されました。当日は、役員および事務局員 13 名が出席しました。

佐藤烈事務局次長の進行で開会し、諸橋健一会長の挨拶の後、永井隆一幹事の議事進行により、定期総会を前に平成 26 年度事業ならびに会計決算報告、平成 27 年度事業案ならびに予算案の審議が行われ、出席者からご意見をいただきました。

【報告】

平成 27 年度年次総会・講演会 実施報告

去る平成 26 年 5 月 24 日（日）13 時 30 分から、いわき市文化センター中会議室において、平成 27 年度年次総会が開催されました。当日の出席者は 15 名でした。

平川英人副会長の進行で開会し、諸橋健一会長の挨拶の後、原田正光副会長の議事進行により、平成 26 年度事業ならびに会計決算報告が事務局からなされ、平成 27 年度事業案ならびに予算案の審議が行われ、承認されました。

平成 26 年度の事業においては、「磯の観察会」や「子供環境研究発表会」、「発表会」などの定例となっている事業のほか、日本財団からの助成事業「スナッシーをさ・が・せ」や平成 26 年度から当会の主催事業の 1 つに加わった「いわき子ども環境賞」などについて報告がなされました。平成 27 年度の事業としては、従来からの事業をはじめ、当会の原点に立ち返るべく「環境講座」を充実させることや、現在の沿岸部の復興事業により立ち入ることができない海岸が多くなっていることから「磯の観察会」の実施を見送ることなどが提案され、承認されました。

総会に引き続き、福島高専特命教授の樋口登先生に、「再生可能エネルギーに対する期待」という演題でご講演をいただきました。今年度の講演会では、震災以降さらに注目が高まっている再生可能エネルギーについて、その発電電力や特徴についてお話しいただき、福島高専で設置されているスマートグリッド実験装置についても解説していただきました。当日の参加者は 24 名で、学生から一般の方まで幅広い年齢層の多くの方々に参加いただきました。

最後に、総会では原田議長はじめご出席の会員諸氏のご協力が無事議事を終了することができましたこと、講演会では樋口先生にご多忙の中ご講演いただきましたことに、本紙を借りて御礼申し上げます。



写真一 総会での会長挨拶



写真二 樋口先生講演会

◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成27年5月1日～6月30日)

平成27年度の総会が開催されました。

平成27年度の通常総会は、6月8日（月）18:00～福島高専専攻科棟にて開催され、会員14名の参加（登録正会員数18名）の下、平川英人理事の司会で進められました。議長に和田佳代子理事を選出。事務局より、平成26年度事業報告・決算報告・会計監査報告、続いて平成27年度の事業計画案及び予算案について説明・提案がなされ、質疑応答の後、原案通り認められました。役員改選では、現役員が引き続き任に当たることが決まりました。

平成27年度の事業内容を紹介しますと、

【1】地域環境についての調査研究および政策提言事業

- 1) 自然エネルギーの利活用に関する事業（パルシステム連合会からの助成金活用）

「いわき自然エネルギー研究会」として事業を展開する。（既存の施設の充実・維持管理、活用・広報、新規施設（湯の岳山荘）の建設、学習教材の充実）

- 2) 「いわき市内河川の水生生物の生息状況等の調査～鮫川流域編」業務

「平成26年度環境まちづくり担い手育成支援事業」（鮫川水系7箇所、水生生物及び水質・流況調査を実施する。） 3) 研修会等への参加。



【2】地域環境についての教育事業

- 1) 自然エネルギーに関する学習支援～平4小児童の他、近隣の小中学校・高校、一般からの参加を呼びかけていく。

- 2) 小学生対象の夏休み自由研究のための支援講座の開催

テーマ：「熱のエネルギーを考える」をテーマに講座を開催したい。

【3】地域環境を改善するための諸活動事業

- 1) 農村水環境学習支援（下小川関場地区農地・水環境保全団体）7月18日

- 2) 「第4回こどもあい♡ネットフェア」への参加（12/19）

- 3) 関連団体との連携事業～①いわき地域環境科学会との共催・連携、②「いわき鳴き砂を守る会」の諸行事への参加・支援（四倉海岸でのフェス等へ参加）、③夏井川流域の会の活動支援、④その他 要請があれば極力対応する。

【4】その他

- 1) 広報活動～①HPの更新、②いわき地域環境科学会の会報「ふいーど」（隔月発行）への投稿、2) 事務局体制の強化、3) いわき地域環境科学会関連の会議等への出席

【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き（第5報）

第5回研究会（H27.3.27）では、平成27年度事業内容について検討がなされ、既存設備の充実と維持管理・学習教材の充実・広報活動等の実施及び新規設備を湯の岳山荘に設置することが決められました。

今回は、その後の主な動きを紹介します。

★**諏訪神社の自然エネルギー施設：** 縦型の風力発電機を新たに設置しました。水車（地上設置型）については、これまでは、風力・太陽光により発電した電気を駆動源として利用していましたが、近くの沢水を導水し、常時水車を回転できるようになりました。

★**田人地区の自然エネルギー施設：** 6月中旬、太陽光・風力発電設備を新たに設置しました。既に設置してある水車と併せ3種の自然エネルギー設備が揃ったこととなります。今後は、発電量等を示す表示板等の設置を進める予定です。

★**新規施設の建設：** 「NPO法人いわきの森に親しむ会」と連携しながら、湯の岳山荘の敷地内の適地の選定を進めています。すでに、木製水車の設計・材料調達も済み、当会会員の蛭田弘幸さんを中心に製作が始まっています。更に、太陽光・風力設備も設置する予定です。製作は、湯の岳山荘で行っていますので、時間のとれる方、一緒に製作にご協力下さい。

★**今後の課題：** 学習施設としての活用を活発化させるため、近隣の学校・公民館等へのアピール及び各地域の施設に見合った教材・チラシの作成等を進め、自然エネルギーに関する教育効果を高めていくことが必要だと痛感しております。 (6/24 橋本 記)



写真—3 諏訪神社の自然エネルギー施設



写真—4 田人地区の太陽光・風力施設

【リレーエッセイ】



タネをネタにしてみました。

吉田真弓 (会員)

私の職場は新築で大変綺麗ですが、部屋が西向きなので、午後の西日がかかなりきつい状態です。6月でこの暑さ、夏場が思いやられます。そして、一番の困りごとはひさしがないことです。降雨時は、霧雨でも部屋の中に入り込んでくるので、窓を閉めるしかありません。猛暑の可能性が予想される夏場が思いやられます。

そこで緑のカーテンでひさしの代わりを作ろうと考え、5月にアサガオ、フウセンカズラ、ゴーヤのタネをまきました。アサガオは震災の前年に収穫したタネで、4年以上もたっており発芽するかどうか心配でしたが、1週間程度で10粒中8粒も発芽しました。反面、昨年収穫したフウセンカズラのタネの発芽率が悪く、5粒まいて2週間以上たっても1粒しか発芽しませんでした。ゴーヤのタネ（これも昨年収穫）は、他の2種に比べると更に10日くらい時間がかかりましたが、7粒中6粒が発芽しましたので優秀な発芽率です。このようにタネの発芽は、植物によってずいぶんと違うようです。種苗会社のタキイのホームページを見ると、アサガオ、フウセンカズラともタネまき時の気温が20℃以上でないと発芽率が下がるということでした。発芽の温度条件は同じようなのになぜこのように発芽に差がでてしまったのでしょうか。ここで自分のとった行動に気づきました。私は、アサガオのタネをまく時はいつもタネに傷をつけてからまきますが、フウセンカズラはなぜかそのまままいています。種皮は胚を守る役割のため強固な構造になっているので、発芽を促進させたいならフウセンカズラのタネにも傷をつけるべきだったようです。ゴーヤも同様の処理で発芽までの期間を短くできるようです。

植物（ここでいう植物とは一般に被子植物を指します）のタネは、受精によって形成される種（しゅ）の保存のための役割を持っています。発芽した植物が根をはり葉で光合成をして独立して生計を立てていけるようになるまで、タネの力に頼らなくてはなりません。タネには親植物が作り出した栄養分を蓄える胚乳や子葉があり、更に丈夫な種皮で被われ、幼植物にとって生育条件が整うまでじっと待つことができる構造です。

私は緑のカーテン作りに挑戦して、タネの発芽には、植物が元来生育していた土地の温度や日照、種子の形や種皮の厚さなどさまざまな条件が密接に関係していることを実感し、植物たちの環境適応能力に感心させられました。植物のタネの力に助けられてきた人類発展の歴史を振り返ると、もともとの生育環境と異なるいわきの地で一生懸命発芽してくれたこの植物たちをできるだけ大きく育てて、共に夏を乗り切り、新しい生命につながるタネを再び収穫したいと考えています。

2015. 7.1. No.111

発行：いわき地域環境科学会
福島工業高等専門学校

地域環境テクノセンター内

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org